国語表現におけるコミュニケーションを円滑にする敬語運用能力を高める指導の工夫
ー敬語法習得のための教材作成とその活用を通してー

国語班　阿部　光彦（高等学校教諭）

確かな国語力を育成するための指導のポイント
➡「社会人として必要とされる言語能力を育成する」
『平成22年度県立学校教育指導の重点』（群馬県教育委員会）

敬語とは、「言葉を用いる人の、相手や周囲の人やその場の状況についての気持ちを表現する言語表現」である。
『敬語の指針』（文化審議会答申 平成19年2月）

《 主題設定の理由 》

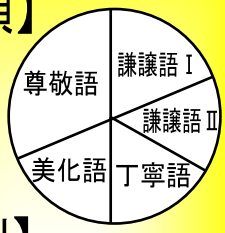
国語科の指導領域である敬語法の学習について、その内容が多くの生徒に定着していないという実状を踏まえ、国語表現の授業における敬語法の指導を再構成し、相手や場面に応じた待遇表現を選択できる能力の育成を目指したい。

社会一般で通用する基礎的な敬語運用能力
「一般常識に属する範囲」
「礼儀をわきまえた社会人として必要な言葉遣い」

研究構想図

体系的な理解

【分類】



【語例】

尊敬語（いらっしゃる　等）
謙譲語Ⅰ（申し上げる　等）
謙譲語Ⅱ（参る　等）
丁寧語（です　等）
美化語（お料理　等）

【機能】

尊敬語：動作主を高める
謙譲語Ⅰ：動作の受け手を高める
謙譲語Ⅱ：聞き手に対して丁重さを表す
丁寧語：聞き手を高める
美化語：ことばをより美しく述べる

〈現状〉
敬語に関する理解（分類・語例・機能）の不足

〈原因〉
- 敬語文法の体系的な理解が不足
- 敬語を使用する機会が不足

〈手だて〉
- 現行の敬語文法体系をまとめた**教材の作成と活用**
- 日常の様々な場面を設定した**ロールプレイの導入**

〈目指す生徒像〉
敬語の分類、語例や機能を理解した上で、場面に応じた基礎的な敬語を運用できる生徒

実感を伴った理解

文案作成
○台本の設定確認
○人物間の関係把握
○場にあった敬語選択

↓
ロールプレイ
↓
発　表
↓
評　価

成　果

◇敬語法に関する基本的な理解の促進

学習前後の調査結果比較

分類の理解度（五分類すべて挙げられる生徒）	29%➡87%
語例の理解度（全種類の語例を挙げられる生徒）	8%➡37%
機能の理解度（敬語の機能を説明できる生徒）	34%➡76%

◇敬語使用に関する実感を伴った理解の促進

生徒の様子（ロールプレイ中）	発表された敬語について、使用についての可否に関する生徒間のやり取りがなされていた
生徒の感想（ロールプレイ後）	敬語は正解が一つだけではなく、表現次第で敬意の度合いを何通りにも変えられることが分かった

課　題

◆教材の充実
・簡潔で分かりやすい例文の提示
・現実味を感じさせる場面設定
・視覚に訴える図示の工夫

◆指導の工夫
・高校3年間を見通した指導の体系化
・より発展的な内容を包含した指導
・「読むこと」「書くこと」の領域を視野に入れた指導